

<p>財団法人日本アレルギー協会関東支部 〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-5-11 富士ビル4階 TEL 03-3222-3437 FAX 03-3222-3438</p>	<p style="text-align: center;"> 関 東 支 部 だ よ り 第 2 号 (2007 年 5 月 発行) </p>
---	---

関東支部だより第2号発刊について

関東支部長（幹事会代表） 伊藤 幸治

さわやかな初夏の候となりましたが、関東支部会員の皆様には、ますますご健勝のことと存じます。

さて、本日、財団法人日本アレルギー協会関東支部機関紙「関東支部だより」第2号をお届けいたします。

第2号には新たな企画の「トピックス」として埼玉医科大学呼吸器科教授、永田真先生（当協会幹事）に今春の米国アレルギー学会で印象に残った話題について執筆していただきました。また第1号とおなじく、日本アレルギー協会ならびに関連諸団体（日本アレルギー学会、患者団体など）の行事予定を掲載しました。なお、発行日を5月末としましたので、6月の行事予定は第1号と重複することをお断りしておきます。

本年2月のアレルギー週間には東京で中央講演会（協会本部主催）が開催されました。また関東支部5地区で一般対象の講演会、長野県・埼玉県で医師対象の講演会が開催され、いずれも盛況裡に終わりました。関東支部の集会はいずれも各地区責任者のご準備によるものです。

当紙の編集方針を含め関東支部の活動方針については、7月頃開催予定の幹事会で検討されますので、次号に掲載することにいたします。

トピックス

米国アレルギー学会で印象に残った話題

埼玉医科大学呼吸器内科教授

日本アレルギー協会関東支部幹事

永田 真

2月23日から27日まで、カリフォルニア州サンジェーゴにおいて、米国アレルギー・喘息・臨床免疫学会(American Academy of Allergy, Asthma & Immunology)の2007年度学術大会が開催された。本年も多数の教育プログラム、特別講演、シンポジウムと1200を越す一般演題で盛大な学会であった。このなかから筆者の印象に残ったトピックスで、読者諸兄のご参考になるかもしれない二つの話題を紹介する。

まず、厚労省関連の文書などにも記載されており、近未来的にスギ花粉症のコントロールにおいて我が国でも大変な期待を集めている舌下免疫療法についてである。この分野の国際的トップである SR Durham 教授を擁する英国 Imperial college のグループから大規模研究の成果が報告された。すでにグラス・アレルゲンのタブレット製剤による舌下免疫療法がグラス花粉症に一定の有意な臨床効果を示すことが、このグループを中心とした全英での二重盲検比較試験で確認されている。本学会では、その季節前投与の必要期間について、検討がなされた。参加患者数934名という大規模研究であるが、本製剤が花粉飛散8週以上前から予防的に投与されれば有意な臨床効果を発揮することが示された。ここで筆者の疑念は、臨床的に8週以上前から舌下免疫療法の投与を行うことが現実的、日常臨床的であるかという点である。現在、花粉症については国際的に1日1回型H1拮抗薬を症状がはじめた段階で(米国などでは1~2週前から投与するというのは筆者の知る限りは行われぬ)使用し、鼻症状の制御に不足であれば局所ステロイド薬を併用、これでもコントロールが不十分な重症にはエビデンスの豊富な注射法によりアレルゲン免疫療法を行う、ということが一般的であろう。日本では免疫療法を施行する医師、施設が少ないため、ともすれば複数の薬物を用いたり、ときに全身ステロイド薬が盛大に使用されているケースも目にするが、免疫療法に精通したアレルギー科医師の多い米国では考えられないことである。このような状況の日本で、8

週以上前から連日投与するタイプの舌下療法が、はたして先々花粉症患者の救済に寄与してゆくか否かについては、効果自体が注射法と比較してどうやらおだやかであるらしいことともあわせて甚だ疑問である。

もう一点は、喘息において吸入ステロイドのみでコントロールが不十分な中等症喘息における併用療法薬は LABA（長時間作用型 β 2 刺激薬）でよいか否かという PRO/CON セッションである。我が国では基本的にステロイドと LABA のいわゆる合剤への待望ムードが満ちているが、CON の FA Martinez 教授（FDA 委員）は、1. β 2 受容体のサブタイプによって合剤のかたちで治療していても治療開始 1 2 週後より以降において呼吸機能が低下してくるポピュレーションがあること、2. その後 1 2 週まではかかる問題は生じないという論文はでたが 1 2 週後以降のデータがないのでその意味自体が乏しいこと、3. その後さらに、同タイプの β 2 受容体サブタイプの患者では LABA であるサルメテロール使用の患者群で急性増悪の比率が有意に高くなることが報告されたこと、4. ふたつの LABA（フォルモテロールとサルメテロール）に両者において再現性をもって、シリアスな急性増悪が増加することが報告されていること、などから LABA を併用薬の第一選択薬とすべきではない、と結論した。先に抗ロイコトリエン薬やテオフィリンを使用してはいかがか、という提言である。さんざん合剤を使用してきた米国人がいまさらいうのに少々あきれもするが、日常臨床で正直 LABA にたよりがちが私には耳の痛い講演であった。

筆者の立場からは、ステロイド吸入に LABA を追加した場合に好酸球気道炎症がさらに改善した、という報告を載せたブローチャー（印刷物）が国内に氾濫しているが、それは科学的真実ではない、という一点はここで明言しておきたい。好酸球あるいはそれと相関する呼気 NO などの検討を含めたステロイド+LABA の併用療法の研究論文は筆者の知る限り 7 点パブリッシュされているが、上述のような効果があらわれたのはうち 1 論文のみであり、いわば 1 勝 6 敗なのである。その 1 勝が世に喧伝されているのは患者さんのためにも間違っているといえる。筆者は 18 年来好酸球の研究をしてきた者であるが、少なくとも吸入性の β 2 刺激薬に、喘息の基礎病態である好酸球性炎症を抑制する作用があるなどということはまったく認知されていない、という一点はここで強調させていただきたい。

アレルギー協会主催・共催・後援の講演会、(関東2007年6月—12月)

主催・共催 後援の別	日 時	会 名	場 所	主催者
後援 **	8月10日(金) ～12日(日)	第1回相模原臨床アレルギーセミナー (5頁の8月10-12日の項も参照)	パシフィコ横浜	国立病院機構相模原病院 院臨床研究センター
共催 **	6月10日(日) 16:30-19:00	第34回耳鼻咽喉科アレルギー懇話会	パンパシフィックホテル横浜	日本臨床アレルギー研究所 顧問 奥田 稔
共催 **	11月15日(木) ～16日(金)	第17回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	ホテルグランパシフィック メリディアン	東京女子医科大学第一 内科学教室

* 一般向け **医師対象

患者団体講演会、集会 (関東2007年6—12月) (第8頁に追加あり)

日 時	会 名	会 場	主催団体、連絡先
6月2日(土) 13:00-16:00	アトピー性皮膚炎患者のための「生活の質」向上の知恵	国立病院機構相模原病院臨床研究センター研修室	国立病院機構相模原病院アレルギーの会
6月3日(日) 12:30~16:00	ぜんそくとアトピー性皮膚炎講演とQ&A (講師 小児喘息:赤沢晃、アトピー性皮膚炎:菅原信、成人喘息:鈴木直仁)	東医健保会館ホール JR 信濃町駅下車 改札口を出てすぐ右へ徒歩7-8分	NPO法人 日本アレルギー友の会 TEL 03-3634-0865 http://www.allergy.gr.jp
11月頃(予定)	講演会	同上(予定)	同上
11月18日(日)	エバレク第8回市民オープンセミナー 専門家と熟練患者がお答えする呼吸器患者との大相談会	都市センターホテル(入場無料) 地下鉄麴町駅(有楽町線)または永田町駅(有楽町線など)下車	NPO法人環境汚染等から呼吸器患者を守る会(エバレク) TEL 03-5411-4017

社団法人日本アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会（関東、2007年6月～12月）

以下は社団法人日本アレルギー学会の許可を得て、同会誌「アレルギー」2006年12月号（55巻12号）、1562-1573頁、会報：「専門医制度情報 社団法人アレルギー学会専門医制度における認定学会・講習会・研究会開催予定（2007年・国内）」より関東支部所属地域（東京、埼玉、千葉、神奈川、山梨、長野）で開催の6-12月分を抜粋して掲載した。さらに、「アレルギー」2007年5月号（56巻5号）、526頁と同学会Web siteの情報を追加した。注 *は日本アレルギー学会の関連学会

会期	会名	会場	会長・TEL	連絡先
6月10日(日) 16:30~19:30	第34回耳鼻咽喉科アレルギー懇話会	横浜ワールドポーターズ6Fイベントホール	奥田 稔 TEL 03-3591-6409	日本臨床アレルギー研究所
6月10(日)~12日(火)	日本アレルギー学会春季臨床大会	パシフィコ横浜	西岡 清	東京医科歯科大学大学院皮膚科学分野：佐藤貴浩 TEL 03-5803-5286
6月12日(火)	第31回日本アレルギー学会専門医教育セミナー	パシフィコ横浜(予定)		日本アレルギー学会事務所 TEL 03-3816-0280
6月23日(土) 13:00~17:30	第59回臨床アレルギー研究会(関東)	富国生命ビル28階会議室	内尾英一 092-801-1011	福岡大学眼科
6月23日(土) 15:00~	第16回小児臨床アレルギー懇話会	千葉駅ビル6階ペリエ大ホール	青柳正彦 043-422-2511	国立病院機構下志津病院
6月23日(土)	第26回漢方免疫アレルギー研究会	都市センターホール	福地義之助 03-3221-5308	(事務局) 〒102-8422 千代田区二番町12-7
6月30日(土) 9:00~16:20	第21回アレルギー・好酸球研究会	千代田放送会館	藤沢隆夫	(事務局分室) 〒107-0052 港区赤坂2-20-2 (株)グラフィター TEL 93-3583-1740
7月6(金)-7(土)	第17回国際喘息学会日本北アジア部会(Interasma)	第一ホテル東京	福田 健 0282-87-2151	獨協医科大学呼吸器・アレルギー内科 〒321-0293 下都賀郡壬生町北小林880

7月12日(木) 18:00-21:00	第26回臨床アレルギー懇話会	東京慈恵会医科大学西講堂	勝沼俊雄 03-3411-1111	東京慈恵会医科大学皮膚科 (中川秀巳) 〒105-8471 港区新橋3-19-18
7月(土) 16:30-18:00 (予定)	第13回城東地区小児アレルギー懇話会		向山徳子 03-3625-6381	同愛記念病院小児科 〒130-8587 墨田区横網2-1-11
7月(予定)	第66回小児アレルギー同好会	ホテルグランドパレス	平野幸子	東京女子医科大学小児科 〒162-0054 新宿区河田町8-1
8月2日(木) - 3日(金)	第28回日本炎症・再生医学会 :*	京王プラザホテル	岡野栄之(慶応義塾大学生理学)	第28回日本炎症・再生医学会準備室 〒100-0013 千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル18F 日本コンベンションサービス(株) TEL:03-3508-1205
8月10日(金) - 12日(日)	第1回相模原臨床アレルギーセミナー (対象 医師、定員90名、募集締切 7月5日(木)、受講料 20,000円) UTL: http://www.hosp.go.jp/~sagami/rinken/crc/a-semi	パシフィコ横浜 アネックスホール (当行事の詳細は「アレルギー」誌2007年5月号(56巻5号)、526頁をご参照)	秋山一男	独立行政法人国立病院機構相模原病院 臨床研究センター アレルギー性疾患研究部 気管支喘息研究室 室長 谷口正美・ 秘書 松本美鈴 〒228-8522 相模原市桜台18-1 TEL:042-742-9721 FAX: 042-742-7990
8月26日(日)	第32回日本アレルギー学会専門医教育セミナー	総評会館	03-3816-0280	日本アレルギー学会事務所 〒113-0033 文京区本郷1-35-26 石水ビル7F

9月8日(土) 15:30-18:00	第26回信州免疫アレルギー懇話会	信州大学医学部付属病院東棟9F会議室	(代表世話人) 高 昌星 0263-37-3431	信州大学医学部保健学科 〒390-8621 松本市旭 3-1-1
9月9日(日) 14:00-18:00(予定)	第51回関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会	日本教育会館	未定	
9月29日(土) 14:40-18:35	第30回埼玉喘息・アレルギー研究会	埼玉県民健康センター 2F大ホール	小山信一郎 048-647-2111	自治医科大学附属大宮医療センター呼吸器内科 〒330-8503 さいたま市大宮区天沼町1-847
9月29日(土) 16:00-19:00	第8回小児吸入療法フォーラム	パレスホテル	(代表) 増田 敬 03-3451-8121	国際医療福祉大学付属三田病院〒108-832 港区三田1-4-3
9月 19:00-21:00 (予定)	第12回城東ブロックアレルギー懇話会	東武ホテルレバント 東京 4F「錦の間」	馬場 実 03-3626-5855	東京女子医科大学東医療センター小児科(大谷智子) 〒116-8567 荒川区西尾久2-1-10 TEL:03-3810-1111
10月13日(土) 15:00-18:00	第21回多摩アレルギー臨床懇話会	日本医科大学附属多摩永山病院C棟2階集会場	(代表世話人) 飛田正俊 042-371-2111	山田小児クリニック 〒195-0063 町田市野津田町1364
10月18日(木) 18:30-21:00	第10回埼玉小児アレルギー研究会	パレスホテル大宮 4F ローズルーム	数馬紀夫(西部総合病院) 048-854-1111	埼玉医科大学小児科 〒350-0496 入間群毛呂山町毛呂本郷38
11月1日(木)-3日(土)	第57回日本アレルギー学会秋季学術大会	パシフィコ横浜	池沢善郎 045-787-2675	横浜市立大学皮膚科 (事務局長:相原道子) 〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9

11月20日(火)-22日 (木)	第37回日本免疫学会*	新高輪プリンスホテル	斉藤 隆 03-3511-9795	日本免疫学会事務局 〒101-0061 千代田区三崎町 3-6-2 原島三崎町ビル
11月(木) 18:00-21:00	第27回臨床アレルギー懇 話会	東京慈恵会医科大学南 講堂	未定	未定
11月24日(土)13:00~ (第一候補)	第25回呼吸器・免疫シン ポジウム	トップオブスクウェア (大手町)	足立 満 03-3784-8661	昭和大学医学部第一内科 〒142-8666 品川区旗の台 1-5-8
11月頃 (予定)	第6回アレルギー性鼻炎フ ォーラム	未定	奥田 稔 03-3591-5464	日本臨床アレルギー研究所 〒105-0004 港区新橋2-16-1
12月 (予定)	第60回臨床アレルギー研 究会(関東)	未定	江藤隆史 03-5214-7111	東京通信病院皮膚科 〒102-8798 千代田区富士見 2-14-23
12月8日(土) 10:00- (予定)	第11回アレルギー・気道 上皮細胞研究会	シェーンバッハ・サボ ー 一階「淀・信濃の間」	吉村邦彦 (虎ノ門病院呼吸 器科)	帝京大学溝口病院 第4内科 滝沢 始 TEL 044-844-3333(代)

患者団体講演会、集会(関東2007年6-12月)(第4頁の追加分)

日時	会名	会場	主催団体、連絡先
9月15日(土)	市民のための「小児ぜん息とアトピー性 皮膚炎講座」	神奈川県社会福祉会館2階ホール	アレルギーを考える母の会 FAX 045-362-3136
10月27日(土)	秋の講演会	神奈川県障害者職業能力開発校	相模原病院アレルギーの会 丸山 FAX 046-256-6763